

東海ぶらら
倶楽部
presents

東海村発足60周年記念
村立図書館開館30周年記念

写真展「東海村の今いまむかし昔」



東海村の今と昔の姿を写した写真展の開催(期日▶8月1日(土)～30日(日)、場所▶村立図書館)に伴い、その懐かしい写真をちよつとだけご紹介していきます!

村松大神宮神幸競馬祭神輿渡御行列

「ヤンサマチ」といわれ、毎年旧暦の3月7日、那珂台地の48村(33村とも)の神輿が、一斉に那珂湊の清浄石や酒列磯前神社に神幸する壮大な祭りで、「本朝三競馬」と称される競馬も行われた。幕末水戸藩が海防上からこの祭りを奨励した勇壮な祭りであったが、昭和4年を最後に「永久居祭礼」となり、とり行われていない。すでに84年を経過し、この祭りを体験した人も見ないが、ぜひとも後世に伝え継ぎたい祭りである。

ふるさと歴史
〜自然を探して〜

東日本大震災の津波から

平成23年3月11日14時46分に宮城県東方沖で発生した巨大地震は、東日本の各地に大きな津波災害をもたらしました。この地震で発生した津波は、東海村にも到来しました。東海村に到来した最大の津波は、高さが7メートル程度と推定されます。これは、新川河口周辺での調査結果によるものです。他にも①東海第二原子力発電所の監視カメラの記録では、最大の津波は5.4メートルで、15時20分ごろから約2時間半の間に7回程度到来した。②豊岡付近では、4.7〜5メートルの津波が到来した。③海岸より約6.2キロメートル上流の久慈川榊橋水位観測所の記録を解析した結果、榊橋への津波の到来は15時50分で、最大の津波は19時10分の3.17メートルであった。④河口から約5キロメートル上流の新川では1メートル程度の津波の跡が残されていたなど、津波による多種多様な現象が観察されました。



水道管にかかった津波漂着物の様子(新川)

集落が砂に埋もれ消滅したという「千々乱風伝説」があります。しかし、東日本大震災の直後に行った緊急調査の中で、原因は津波との新たな発想も生まれました。

昨今、多くの研究者が、巨大地震や火山噴火は、いつ発生しても不思議ではない」と述べ、それを裏付けるさまざまな現象も発生しています。薄れつつある防災意識を呼び起こし、新たな災害への備えを始めてみてはいかがでしょうか。

東海村自然調査会調査員

菊池 芳文

と新川流域の低地でした。また、現地を詳しく調査すると、場所によって、到来した津波の高さ、広がり、時間、回数などにさまざまな違いも認められました。その原因は、狭い面積にもかかわらず海岸・河川・低地・丘陵と、山地を除いた地形が箱庭のように発達する、東海村特有の自然環境が複雑に作用したためと判断されました。つまり、津波を含め東海村で地震により発生する現象は、場所の地形や地質によって異なるということですから(教育委員会発行「東海村の東日本大震災」参照)。東海村には、強風により一夜にして